

第13回由良川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成29年3月21日（火） 10:30～12:00

開催場所：中丹勤労者福祉会館 4階 大会議室

出席者：川合委員（座長）、池上委員、音田委員、片岡委員、神田委員、土田委員、柳瀬委員
（出席7名，欠席2名）

I 議事次第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 座長選任
4. 議事
 - ・由良川水系河川整備計画の進捗状況について
 - ・その他（報告）
 - ・事業再評価の結果について
5. 閉会

II 議事概要（○：委員発言，●：事務局発言）

（1）座長選任

由良川流域懇談会の座長について、事務局より前回から引き続き川合委員が推薦され、委員からの異議なしということで、川合委員が座長に選任された。

（2）由良川水系河川整備計画の進捗状況について

由良川水系河川整備計画の進捗状況について事務局から説明を行い、委員より以下の意見が出された。

- 資料3-2のP1の進捗率について、緊急的な治水対策と床上浸水対策が終わった場合はどうなるのか。また、浸水家屋数の変化というのは、整備計画の事業が全て終わると、中流部と下流部ともにゼロになるのか。
- 1点目の事業進捗について、緊急的な治水対策が終わった段階でほぼ連続堤や輪中堤整備等は終わると認識している。2点目の整備計画流量流下時の浸水家屋数の変化については、整備計画の事業が全て完了すれば計算上ゼロになる。
- 資料3-1の河道掘削と樹木の伐採について、それぞれ並行してやっているのか、樹木の伐採のみというところはあるのか。
- 樹木伐採の箇所もあるが、平成27年度末時点では並行してやっている。
- 樹木伐採については、いったん伐採してもまた生えてくるが、伐採計画はどのようなふうになっているのか。
- 河道掘削前の伐採のときには除根もしているため、基本的に再繁茂の可能性は少ないと考えている。

- その伐採した樹木を有効利用しているのか。
 - コスト縮減の観点から希望者に無償配布をしている。
-
- 資料 3-2 の中流部連続堤の進捗率について、こういう数字がそのまま外に出た場合に、何も進んでいないと見られるのではないかという懸念を感じるので、なぜそういう状況なのか丁寧に説明が必要と考える。
 - 今回は由良川水系河川整備計画の進捗点検のため、輪中堤及び連続堤の進捗率は河川整備計画が策定された平成 15 年度以降の進捗率であり、それ以前の堤防整備を含む流域全体の堤防整備率は平成 27 年度末時点で 82%である。丁寧な説明に努めていく。
-
- 土砂動態について、山の荒廃等と関連すると思うので、砂防や林務との連携や協議等いろいろ検討いただきたい。
 - 土砂の堆積については、河川の定期測量や週 2 回の河川巡視から堆積状況の確認を行っているのが現在の状況であり、ご指摘のあった砂防や林務等との連携については今後検討してまいりたい。
 - 調べた範囲では、由良川については大きな河床変動はなく、山地もそんなに荒れているというところはない。現状では流域全体に砂防ダムがあり、コントロールされていると思われる。
-
- 火災の際には由良川から水を使って消火活動をしているが、大きな堤防ができて、車両が川へ下りられる箇所はあるのか。また、よどみがないとポンプが水を吸えないので、そういった点も配慮されているのか。
 - 基本的には調整をしながら、必要などころには坂路を設置しており、今のところ水も吸いにくいという話は聞いていない。
-
- 資料 3-2 の P3 の草刈の無償提供について、提供後の用途は把握しているのか。また、川の中州はどうしても有害鳥獣の巣になっているため、中州の対応についても計画あるのか。
 - 刈草の無償提供については、基本的には自家消費ということを原則で配布している。また、中州については、治水上の観点で必要に応じて掘削を実施している。
-
- 明智藪について、福知山環境会議では、昨年からは福知山公立大の学生と整備をやっている。今後は明智藪周辺の整備が進んでいくことが予想されるが、連携しながら進めてほしい。また、この整備計画全体の市民へ落とし込みや子どもたちへの環境教育についても今後連携しながらやっていきたいのでよろしくお願ひしたい。
-
- 資料 3-1 の P2 環境・利水 04 の平成 27 年の「伐採方法の検討を実施」について、具体的にどのような検討を実施しているのか。
 - 例えば皆伐、区域伐、間伐等どのような伐採方法とすべきか、連続して伐採可能な範囲は

どの程度か等の検討を行ったもの。

- 由良川ではマダケが河川敷を優占しているが、マダケのタケノコを食べるイノシシが悪さをして堤防を傷めて被害を受けているというのを耳にしたことがある。マダケの適正密度について、あるいはそれが繁茂することによって樹木が被圧を受けるというような部分での検討はしているのか。
 - 現時点で特段の検討はしていない。

 - 土砂について、局所的に例えば堆積しているとか、洗掘しているということは把握しているのか。
 - 局所的な洗掘や堆積につきましては、巡視や定期測量等で把握に努めているところであり、流路が大きく曲がっている部分については局所的な堆積や洗掘があるということ把握している。

 - 資料 3-1 の P1 の堤防の耐震性照査は 100%となっているが、特に問題がなかったということか。また、樋門・堰等の耐震性照査というのはまだ始まっていないが、これはすぐにはしないということか。
 - 堤防の耐震性照査についてはマニュアルに基づき実施しており、その結果、由良川では照査外水位より堤内地盤高の方が高いため、例え堤防が地震により崩壊した場合でも堤内が浸水することがないと判断している。また、樋門・堰等の耐震性照査については、樋門のある全範囲で堤内地盤高が照査外水位をよりも高いため、現時点では緊急的な治水対策を優先して実施している。
- (3) 事業再評価の結果について
事業再評価の結果について事務局から説明を行った。

以上